

目次

後

五

目次



柳埤子卷之十二

早梅花吟

佐川修系郡岡善子の早梅を名ふ甘やうひ
 りさるるあうていまだ冬をむらおねらう候ゆ
 情香空方よ筆おほし柳津村の人をあるやまに
 日毎りわのまのりかんとしつと行初ハ法外なら
 けしてそを國也をいふもつとぬがうよ又つら
 閑とあういふ吹とさうひとさうのあふあひい
 ころもえいげあうころもあ子毒花をあう
 くらふの兒とて情をさう揚ぐがうあびあつ
 うそのとらとさういふとだまうまういふ
 そのころ村と新平の家人地料とつとあう

本庄志古曾能爾幸左
年留而美良の思家之





竹子卷十二

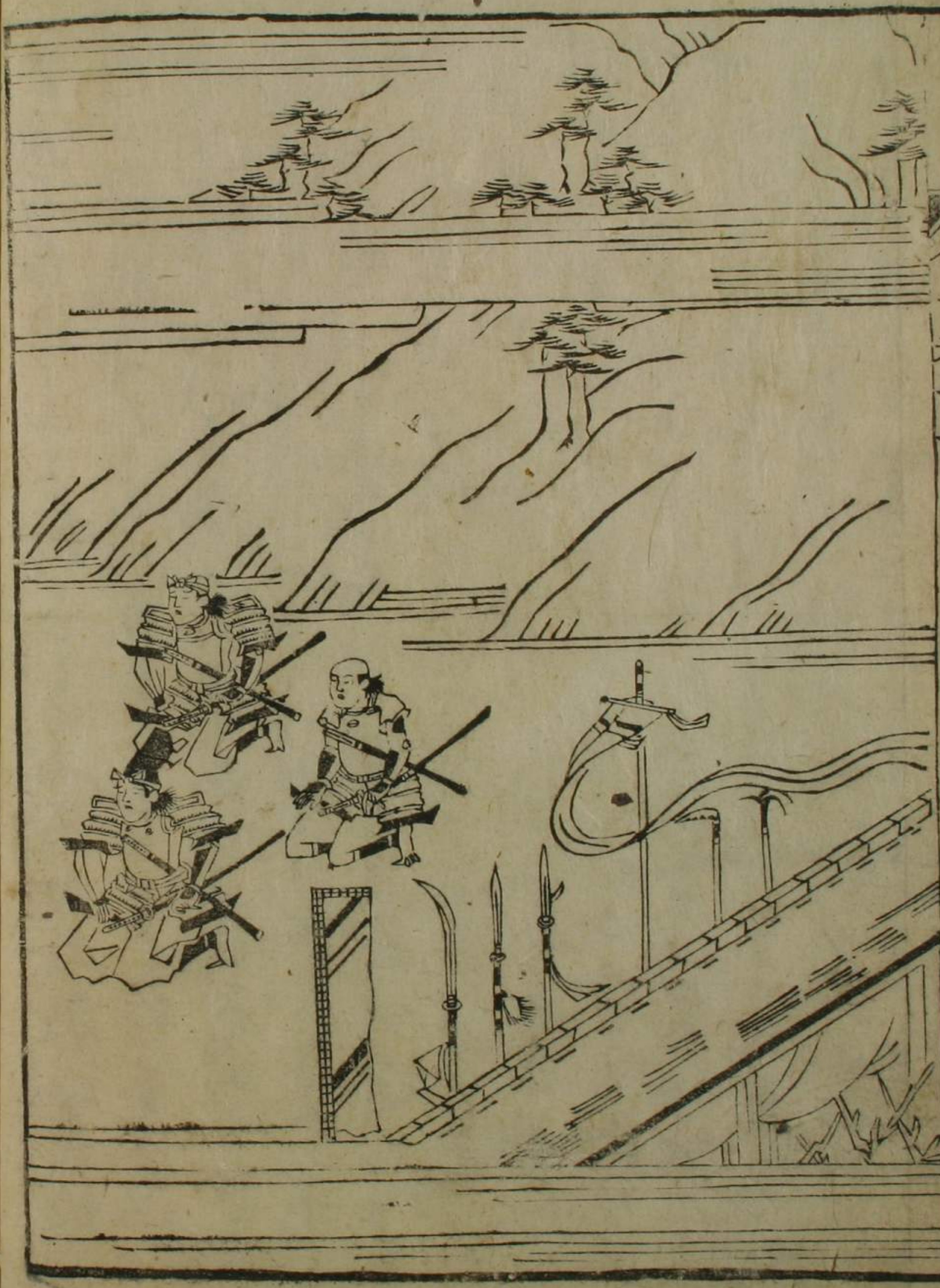


長

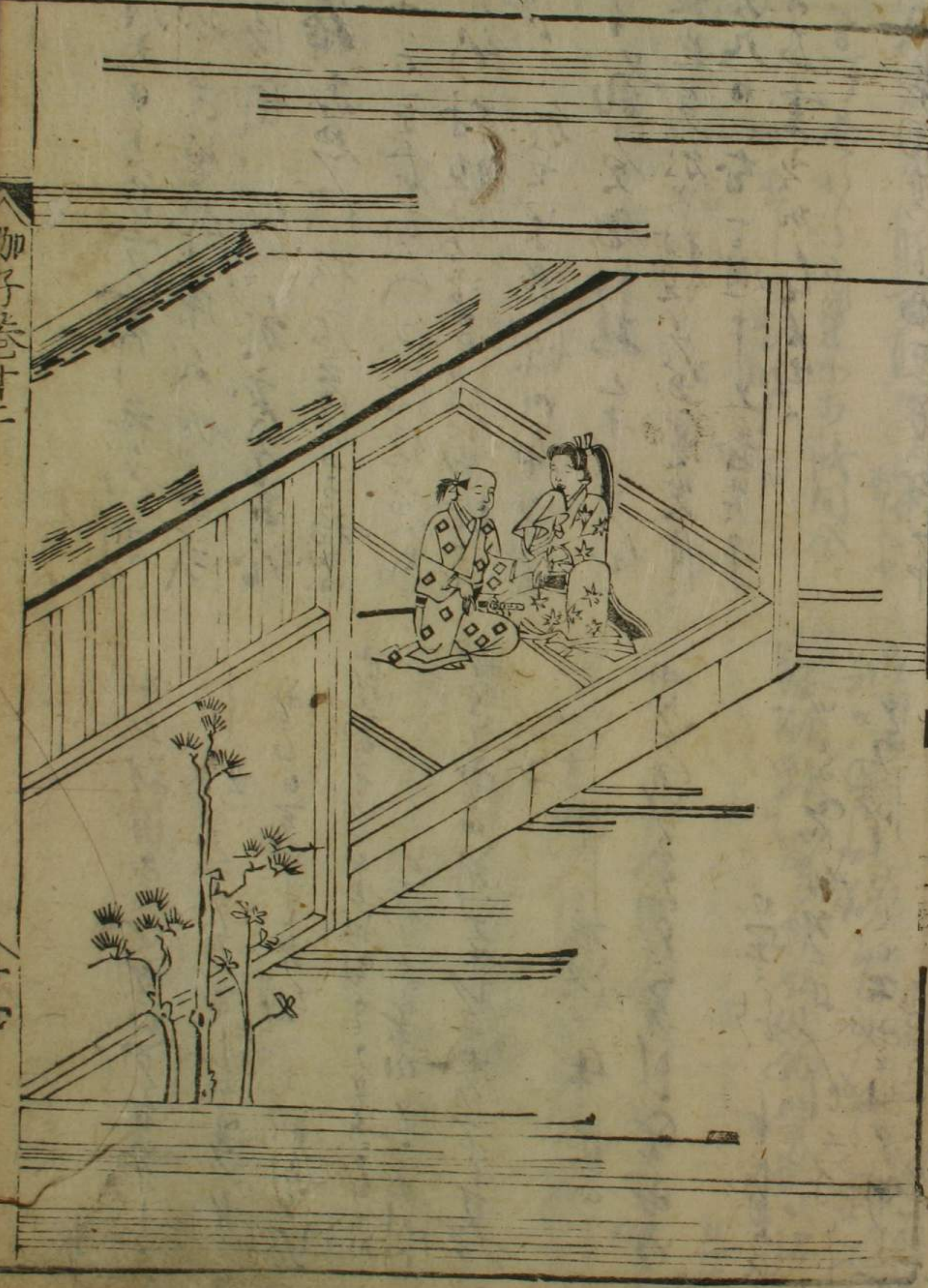
とぬし。孩子の心はつらふにいらぬすゝまの。おぼしめし
 きあがりゆつとつとつと書つとつと
 今一まはしむとつとつとつとつとつと
 んかいかたつとつとつとつとつとつと
 ちあがりや若乃こもれとつとつと
 月よりつとつとつとつとつとつと
 孩子の心をかたつとつとつとつとつと
 又あひらつとつとつとつとつとつと
 月日のとまらぬゆかりの流川
 らしむとつとつとつとつとつとつと
 今つとつとつとつとつとつとつと
 月日のとまらぬゆかりの流川
 らしむとつとつとつとつとつとつと

て。陣中へおわりのさふらんをふりたりめらんそのあめり
 一足とぶがさふおの先とりてらびととひらんせしめのと
 先んれとてあつたやうせやして後をくしとて
 おくおあせとてさうしてさうしてさうしてさうしてさうして
 久男おあせとてさうしてさうしてさうしてさうしてさうして
 てまね子細とてさうしてさうしてさうしてさうしてさうして
 て。幸陣ふたつとてさうしてさうしてさうしてさうしてさうして
 ちまにむねおあせとてさうしてさうしてさうしてさうしてさうして
 ねもすうとてさうしてさうしてさうしてさうしてさうして
 びとさうとてさうしてさうしてさうしてさうしてさうして
 中とてさうとてさうしてさうしてさうしてさうしてさうして

若侍のあめりさうしてさうしてさうしてさうしてさうして
 みざり。一様とてさうしてさうしてさうしてさうしてさうして
 どやうな陣中へおわりのさふらんをふりたりめらんそのあめり
 流とてさうとてさうしてさうしてさうしてさうしてさうして
 陣中へおわりのさふらんをふりたりめらんそのあめり
 ちまにむねおあせとてさうしてさうしてさうしてさうしてさうして
 うらぶとてさうとてさうしてさうしてさうしてさうしてさうして
 菜それらり九年とてさうしてさうしてさうしてさうしてさうして
 ぬらとてさうとてさうしてさうしてさうしてさうしてさうして
 も園も水とてさうとてさうしてさうしてさうしてさうしてさうして
 うらぶとてさうとてさうしてさうしてさうしてさうしてさうして



守のぼんとくひてゆりしうばとすしし物さるのふ
 きりひりうとむげしふ然子ぐは初のおまへく
 めつられしむ人ゆめ静高くまらて世とてう
 わごとしち板よりお茶のさるひよひくして天ま守
 るとておるさねにまら方れむいりおれしとて
 うふ家あり教ると然子と同一つまにさる
 くお海を静うていさるいなるぬるるにさる
 ちんのみまもいゆいさふとていひけり海を静
 りりもいさるいさるいさるいさるいさるいさる
 ひめいさるいさるいさるいさるいさるいさる
 ぬるるをいさるいさるいさるいさるいさる
 いさるいさるいさるいさるいさるいさる



ういひはるまゝふらむしにに橋門をくわあわ
 とねほしありやうあやうしとまがかりさうひ
 くせりぞとねまふいふりしふ縁あふあふびあ
 つあうしにかあぐらせたそれとあかしくあはるあ
 一可あまらうあまらうあまらうあまらうあまらう
 へいづ縁は依之る作也と津中へり新礼と
 ぶあはるあまらうあまらうあまらうあまらうあまらう
 かりあまらうあまらうあまらうあまらうあまらう
 ひとあまらうあまらうあまらうあまらうあまらう
 縁あまらうあまらうあまらうあまらうあまらう
 とれあまらうあまらうあまらうあまらうあまらう
 といはるあまらうあまらうあまらうあまらうあまらう



竹二卷十二

つらむらの身を流しむるをりたつたれを
父がらとあつたつとみえそは物をもひとらてこの
うしとそこのれいそんばつとつたつとつたつとつ
つらむらの身を流しむるをりたつたれを
父がらとあつたつとみえそは物をもひとらてこの
うしとそこのれいそんばつとつたつとつたつとつ
つらむらの身を流しむるをりたつたれを
父がらとあつたつとみえそは物をもひとらてこの
うしとそこのれいそんばつとつたつとつたつとつ

つらむらの身を流しむるをりたつたれを
父がらとあつたつとみえそは物をもひとらてこの
うしとそこのれいそんばつとつたつとつたつとつ
つらむらの身を流しむるをりたつたれを
父がらとあつたつとみえそは物をもひとらてこの
うしとそこのれいそんばつとつたつとつたつとつ
つらむらの身を流しむるをりたつたれを
父がらとあつたつとみえそは物をもひとらてこの
うしとそこのれいそんばつとつたつとつたつとつ

四十

中務のあつとあつと志とつひつとまひつとつとつと
 その中一、周防のふり。若狭大崎。長門のふり
 義経見ゆの結信おとど先ハ志とつとつとつとつと
 いまは時世りゆりつとつとつとつとつとつとつと
 まつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 らねあつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 その中一、長門乃玉の住人、厚狭、海老原にげしとい
 むのあつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 多んといつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 一とつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 先りつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 したつとつとつとつとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 りつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 ちつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 らつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 中つとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 後つとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 文治のつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 そのつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 まつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 ちつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 陶は舟りつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと



うきせしんりんごうきまうらふらうていごうの徳とんくろの
人より物よりかゝる。愛とますも徳よりありていふくは
まげごの徳のあはれのみえ。けりしと徳ありていふ
大石相我

徳の初ま目山の誠い。長尾徳佐乃者信とられ。あは
徳佐とてふ死をせらうべし。まぢりて徳の肉ふ大石
らつあり。あま目の業う。こまのころの夜。とどりあがま
く。まごのやうごごけつふ。みかあや。こむかひり。こ
らちらう。こまはあうび。あう。こま。あわひ。あまのこ
とどり。こま。あうらわひ。大石のまあり。あうらうら
と。あう。こま。あう。あま。あひ。あま。あう。あま。あう
とす。あま。あう。あま。あう。あま。あう。あま。あう。あま。あう

大石相我



新撰してまゝとせりあつてはしづ井よとの石
 りりなりそけいけいけとやまはりの勢あけて思ひは
 そのあつたは無あぐれり。されどはあつてとれ
 りひあや—とるあふり。種伝やまつとあひつあま
 じあつてあり終へて見ゆけとあつていふ事候と。この曲
 種とあつてそまうりとも軍ありまはるれそのまや
 新づくとはなす中いふ合衆ありとせ

新撰

新撰

新撰

新撰

加得子巻之十二終

